

開倫塾

塾長 林 明夫

明けましておめでとうございます。本年もどうかよろしく願い申し上げます。

お陰様で、1979年9月に足利市の南に位置する百頭町に誕生した開倫塾は、昨年秋に28周年を迎えることができました。昨年夏には、栃木県日光市に「今市校」を、茨城県結城市に「結城校」を開校することができました。非常にゆっくりとした歩みですが、約400名の教職員と12,000名以上の保護者の皆様、開倫塾に建物を貸して下さる50名以上の家主様をはじめとするビジネスパートナーの皆様、地域社会の皆様の御理解と御協力・御指導のお陰をもちまして、今では6,000名以上の塾生が年間を通して開倫塾で学び、また、この冬の冬期講習会には1,000名以上の新しい塾生が参加する見込みであります。本当に有り難うございました。心から感謝申し上げます。

ここからは、皆様が読み易いようにQandAの形で書かせていただきます。少し文章が長くなると思いますので、もしよろしければ赤色等のボールペンやラインマーカーなどを用意していただき、少しでも参考になるとお考えのところには、下線やマークをお引き下さるようお勧め申し上げます。

Q：先月の塾長通信に、林さんは中学校などに行き出張授業や講演をしているとありましたが、そこでどのような感想を持ちましたか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1) 私は勉強が足りないので、いくつかの団体に入り不足する勉強を補わせていただいております。その団体の1つに、個人の資格で入会できる経済同友会があります。私は、群馬県にある群馬経済同友会と栃木県にある社団法人栃木県経済同友会、それから、東京にある社団法人経済同友会に入会させていただき、会員になっております。(これに加えて、茨城県と栃木県では、茨城県経営者協会と栃木県経営者協会に入会させていただき、会員になっております。)
- (2) 東京にある社団法人経済同友会の中には、「学校と企業・経営者の交流活動推進委員会」があり、その活動として「出張授業」をしております。各学校や教育委員会から要請があると、学校等に出張授業に出掛けてもよいという登録をしている百数十名の会員のところに(経済同友会には約1400名の会員がいます)FAXがきて、講師の募集がスタート。経済同友会の事務局と学校側との話し合いの中で講師を選定し、選定された講師は学校と連絡を取りながら、授業を準備。出張授業の当日を迎えます。
- (3) 今年は、夏以降、東京都杉並区立大宮中学校、東京都北区立飛鳥中学校、東京都墨田区立立花中学校、両国中学校、寺島中学校、東京都町田市立鶴川中学校、東京都江戸川区立瑞江第三中学校、東京都世田谷区立梅が丘中学校など8校で、中学生を対象に、各々50分間の出張授業をさせていただきました。

教育委員会からも、経済同友会を通して要請があり、東京都西東京市全校長研修会、東京都西東京市全副校長研修会で各々2時間の講演をさせていただきました。また、11月には、宇都宮市教育委員会と栃木県教育委員会の要請で、栃木県市町村教育委員研修会において栃木県の全市町村の教育委員および教育事務所長等幹部の皆様に、1時間半の講演をさせていただきました。7月には、東京都の東京女学館小学校の校長の要請で、全教員向け研修会において2時間の講演をさせていただきました。

(4)出張授業・講演をする際には、主催者の求めるテーマに沿った話をさせていただくために、私はその日に話すべき内容を何日間かかけて考え、授業の設計をし、その内容をメモして授業等に臨むことにしております。そのメモの大体は後日、開倫塾のホームページの中の林明夫のページの「歩きながら考える」のコーナーに載せておりますので、よろしければ是非御高覧下さい。長いもの短いものとありますが、ほとんどは2～3日かけて書き上げております。

日本を代表する経済団体である経済同友会から派遣されて行く出張授業であり、他の場合も折角私を講師に選任していただいたのですから、ご期待に添えるように全精力を傾けて準備をし、全精力を傾けて授業や講演をさせていただいております。(原稿料、資料代、講演料、交通費等は一切いただいておりません。)

(5)出張授業や講演の内容については、私のホームページでゆっくりお読みいただきたいのですが、その内容を一言でいえば、「よく生きる」ために自分の力で自分自身の「能力を強化」しようということです。「能力を強化する」ことを、英語では Empowerment(エンパワーメント)といえます。

(6)私は、開倫ユネスコ協会(英語で、Kairin UNESCO Association、カイリン・ユネスコ・アソシエーションといえます)の会長をさせていただいております。

開倫ユネスコ協会は、2001年に設立された新しいユネスコ協会ですが、その設立の趣旨は「人間の安全保障の促進」です。これからの世界では、国家の安全保障を補う意味で、一人ひとりの人間の尊厳を大切にする「人間の安全保障」が大切だと考えるからです。人間の安全保障には、2つの大切な内容があります。その1つは、人々を危険な状態から「保護」すること(英語で Protect プロテクトといえます)。もう1つは、自分自身に力をつけて生き抜くこと、つまり「能力強化」です(英語で Empowerment エンパワーメントといえます)。学校でも、「生きる力」が大切であると言われていていると思います。「生きるとは何か」「よく生きるとは何か」を考えていくと、「自分自身とは何か」に必ず突き当たります。ただし、大切なことは「自分は一人では生きられない」のであって、「世の中との関係で自分自身を生かす」ことが求められます。

そこで、「世の中」とは何かを考える必要が生じます。「世の中」とは何かを知るには、TVもいいですが、じっくり考えるには、新聞や本を腰をすえて読み込むことも大事です。人の話にじっくり耳を傾けたり(傾聴)、いろいろなところに出掛けて視野を広げることも大事です。世の中のことを考える中で、自分の「よさ」を探し、「自分とは何か」を考える。どのような生き方をしたら「自分にとってよく生きることになるか」を考える。

(7)世の中との接点で大切なことの1つが「働く」ということですので、できれば「働く意味」「働くとは何か」を考えることも大事です。

私は、Decent Work(ディーセント・ワーク)というILOで唱道している労働に関する概念(考え方)を紹介しています。きちんとした仕事という意味のようです。ILOでは、児童労働や過酷な女性労働などを廃絶する意味で使用しているようですが、日本のような成熟した社会では、「生活できるだけの収入が得られる仕事」「その仕事を通して自己実現できる仕事」が「ディーセント・ワーク」なのではないかとお話しています。ただ難しいのは、仕事とは、その職場に行けばよいというのではなく、「お客様にとっての課題解決・問題解決になる」という結果を出さなければ仕事をしたことにはならない、お金はもらえないことです。仕事をするということは、人様のお役に立つこと。人様のお役に立つことを通して、社会のお役に立つことと考えることが大切。人様のお役に立つには、お客様のことや、お客様の課題・問題を知らなければならない。お客様は変化の激しい「世の中」にいらっしゃるので、「世の中の動き」もよく知らなければならない。

学校での勉強内容をきっちり身に付けた上で、自分の得意分野をいくつか探し、英語やコンピューターも使いこなせた方が仕事はうまく進む。お客様とのコミュニケーションも進み、問題解決に近づく。

学校での生活、学校での勉強は、社会に出てすべて役立つ。仕事をする上でもすべて役立つ。だから、毎日をしていねいに過ごしてもらいたい。

(8)「学校での教科の勉強」と、運動会や文化祭、修学旅行、自然体験、観劇や音楽鑑賞などの「学校行事」クラブ活動、学級会活動、生徒会活動、いろいろな当番、そうじなどの「教科以外の活動」はすべて、社会に出てから一生役に立つ。もちろん、仕事をする上でも役に立つ。毎日毎日を大切に大切に、丁寧に、充実させながら過ごしてもらいたい。このような思いで、話をさせていただいております。

(9)どこに行っても、かなり熱心に毎回話をさせていただいておりますので、おしゃべりをする人や眠り込む人はあまりいらっしゃいません。有難く思います。

ただ気になったのは、なぜ今学校で勉強しているのか、その意味がよくわからない。特に、なぜ1つ1つの教科を勉強しているのかわからない。学校に遅刻してはいけないのかよくわからない。授業中におしゃべりをしてはいけないのかわからない。授業中に携帯電話をいじってはいけないのかわからない。眠ってはいけないのかわからない。なぜ世の中に出て働かなければならないのかわからない。なぜ生きているのかわからないといった率直な疑問をよく耳にすることです。

自分のしていることの意味がわからないことほど、つらいことはありません。ものごとの善し悪しの判断の基準を知らないで生きることも、つらいことだと私は考えます。

(10)また、勉強の仕方がよくわからないで悩んでいる人も相当います。両手を机の上に置き、先生の目を見て、真剣勝負で先生の言うことを一言も聞きもらさないつもりで熱心に授業を受ける。必要なことはすべて、ノートにメモを取り続ける。このような、授業を受けるときの基本動作をよく知らない人も多いようです。

授業等で、一度うんなるほどと「理解」した内容を、「音読」や「書き取り」「計算・問題」練習を何十回、何百回も積み重ねて自分自身のもので確実に「定着」させれば、誰でも定期テストでよい点が取れることを知る人も余り多くないようです。

(11)私がいろいろな学校で出張授業をさせていただいた印象は、「大切な学生時代を、もっともっと真剣に生きた方がよい人が多い」ということです。

先日の内閣府から発表によると、携帯電話を持つ女子高校生は1日平均2時間以上 e-mail や通話をしているとのことでした。男子高校生は1日平均1時間半以上、中学生でも1時間以上は携帯電話で e-mail や通話をしているとのこと。携帯電話以外にも、TVやゲームなどに多くの時間とお金をかけている生徒が多いと、どこに行っても耳にします。

(12)今回、開倫塾ニュース 2008 年2月号で書かせていただいた「『自律的に活動する能力』を身につけよう」という文章は、このような中でどのように生きたらよいかを自分の頭で考えていただきたいとの思いで書いたものです。塾生の皆様には自分のこととして、また、保護者の皆様や地域社会の皆様や多くの先生方には、どのような方法で児童・生徒・学生に学校で勉強する意味や、学校での1つ1つの活動の意味を理解してもらい、その上で生き生きとした学生時代を過ごしてもらえるかについてお考えいただければと希望します。

どこにおじゃまして、生徒の皆さんは礼儀正しく、また、先生は御熱心で素晴らしい学校ばかりでした。PTA はじめ地域の、学校への信頼も厚く、地域全体で学校を支えているという印象を強く持ちました。文字通り、地域総がかり、社会総がかりで、学校とそこで学ぶ子どもたち

を支えているという思いを強く持ちました。

Q：林さんが、開倫塾の塾長として受験生の皆様にお伝えしたいことは何ですか。

A：何のために今受験勉強をしているのか、その意味を考えた上で勉強してもらいたいということです。もちろん、希望する上級学校に合格するためではありますが、受験勉強にはそれにもまして様々な意味があります。

Q：なんですか。その様々な意味とは。

A：折角ですので、少しずつ説明させていただきます。

(1) 受験勉強には今までの勉強を完全に身につけてから次の学校に進学するという「学力定着」の意味があります。

希望校に合格するだけの合格点を取るためには、学校で今までに勉強した「教科書」に書いている内容はうんなるほどと十分「理解」するということ。

十分「理解」した上で、スミからスミまで確実に覚え込む必要があります。教科書に書いてある内容はスミからスミまで「何も見ないでスラスラ言える」こと、何も見ないで「楷書(かいしょ)で正確に書ける」こと、教科書に出てくるくらいの計算問題や練習問題は、なぜそのような解答になるのかをうんなるほどと十分に「理解」した上で、見た瞬間に条件反射で正解できるようにしておくこと。そのために、「音読練習」「書き取り練習」「計算(問題)練習」を何十回、何百回も繰り返すこと、積み重ねること。

その上で、その試験に過去に出題された問題(「過去問」といいます)を何年分か丁寧に解き、自分の弱点を知ること。予想問題を何回分か解き、自分の弱点を知ること。なぜ過去問や予想問題で間違えたかを検討すること。よく「理解」していなくて間違えたのであれば、参考書や辞書などを用いて、学校の教科書をもう一度丁寧にやり直すこと。どうしても「理解」できなければ、学校や開倫塾の先生に質問すること。十分「定着」していないことが原因で「ケアレスミス」をしたら、「練習、練習、また練習」で「定着」をはかること。(どの入試でも、学校の教科書内容のスミからスミまでの確実な「理解」と「練習、練習また練習」による「定着」で、偏差値 60 まではいきます。 ) 「応用力不足」なら、「過去問」や「予想問題」をもっともっとやって下さい。(「開倫塾の教材」をスミからスミまですべて終了させると、誰でも偏差値 70 まではいきます。偏差値 60 以上の人は、開倫塾の教材をスミからスミまですべて終了することをお勧めします。 )

何回も同じようなことを申し上げて恐縮ですが、このような方法で、今まで学校で勉強したことを受験勉強を通してスミからスミまで確実に身に付ける、難しい学校に入学したければ、教科書に載っている以上のことまで確実に身に付ける。学力を十分に身に付けた上で、入試に臨み、合格し、入学を果たす。このことは、受験勉強に期待される最も大きな効果であると私は確信します。

98 % 以上の中学生が高校への進学を果たすのが、現代の日本です。また、76 % 以上の高校卒業生が大学・短大・専門学校、専修学校への進学を果たします。(浪人を入れると、80 % になるとも考えられます。 ) このように、多くの若者が上級学校への進学のお機会を与えられる日本は素晴らしい国であると考えます。その多くの方々が、上級学校に進学する準備として、それまでに学校で勉強した内容をもう一度勉強し直し「理解」「定着」「応用」をはかる。「学校での勉強を十分に身に付けた上で、上級学校に進学する」という意味で、受験勉強は非常に意味があると私は考えます。

(2) 高校にしる、大学にしる、上級学校での教育や研究は、それまでの学校の教育を前提に成り立っています。例えば、高校生なのに中学校で習ったはずのことが身に付いていなかったり、大学生なのに高校で習うべきはずのことが身に付いていなかったりすると、そこでの教育や研究に大いに差し障り(さしさわり)が生じます。

もう一度、前の学校での勉強をやり直さなければなりません。いろいろな事情があって、よく勉強できなかったことはあるでしょうが、その学校で勉強すべき内容はその学校に在籍する間にできるだけ完了させておいた方がよいと考えます。前の項目と重なるかもしれませんが、その意味でも、受験勉強を通して、せめて教科書に書いてあることは、その学校に在籍する間に確実に「理解」「定着」「応用」をはかることに意味があると私は考えます。

(3) 「受験勉強」を通して得られるものに、「勉強の姿勢」や「勉強の仕方」を身に付けるということがあります。

よく勉強すればどんどん成績が上がり、合格する。少しでも勉強を怠れば成績は上がらずに、不合格となる。よく勉強したかしなかったかで、結果が決まる。これが「受験」の本質です。

「自己責任」「自助努力」が求められるのが「受験」です。

「志(こころざし)」を高く持ち、「自分はこのような生き方をしたい」、「そのためにこのような学校に入学を果し、このような勉強をしたい」、「そのために、今の成績はこうだが、猛烈に受験勉強をする」と考えて受験に臨むと、車にターボエンジン、飛行機にジェットエンジンが付いたように、受験勉強に「勢い」が付きまします。

先日、インドの大学受験生の勉強の様子を放映した「NHK スペシャル、インドの驚異」という番組を見ました。インド工科大学に合格し、大学卒業後に立派な仕事をして、自分の住む貧しい村に小学校をつくりたいという「高い志」を持つ受験生の勉強ぶりが紹介されましたが、私は深く感銘を受けました。世界には、「志(こころざし)」を高く持ち勉強する「受験生」がたくさんいます。そのような人たちの「生き方」も参考にして、同じ立場にいらっしゃる皆様も「受験勉強」に励んでいただきたく思います。

受験勉強を通して自分なりの「効果の上がる勉強方法」を見つけることをお勧めします。真剣に勉強に打ち込めば打ち込むほど、どのようにしたら効果の上がる勉強ができるだろうという壁に突き当たります。開倫塾でお示ししている「理解」「定着」「応用」という「学習の3段階理論」はその原理、原則を示したものです。ぜひ、この上に自分なりの勉強方法を加えていただきたい。そして、「一生使える自分なりの勉強方法」を、この受験勉強を通して身に付けていただきたく希望します。

受験勉強には様々な困難が待ち受けます。その困難を、皆の力も借りながら最終的には自分で乗り切らねばなりません。このことで、強い意志力、克己心(こっきしん)、自分に打ち勝つ力、忍耐力が身に付きます。「人格の基礎」の一部が形成されるとも私は考えます。

長い文章になりましたが、今月はこの辺で終わらせていただきます。

皆様に、勉強の意味、受験の意味をお考えいただく参考になれば幸いです。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。